

旧「経営報告」の再刊に代えて「故事巡礼」をスタートさせる。

代表取締役社長 石和田 雄二

アイヴィス創業以来 36 年、バブルの絶頂期に会社を立ち上げたが、今齢 81、来年の社長退任に備えて業務上の整理をする時期が来たのかと思始めている。03 年以来 20 年近く続けて来た社員向けメッセージ「月次経営報告」は、コロナ渦中の 22 年 3 月に一旦区切りを付けた。コロナ終息以降、再開時期を探したが、近々来る退任時期を考えると、中途半端な再開はしない方が良く考えていた。リアルタイムな経営報告よりも、アイヴィスと共に歩んできた 36 年間に学んだこと、人との出会いや別れもあれば、現場の仲間たちと困難を超え今に至る道を拓いて来たこと、技術、業界、社会経済や世情の大きな変化の中で、悩み、考え、学んできたことが沢山あり、それを伝える方が大切ではないか、との思いからだ。経営の立場で振り返れば、人との出会いも出会ったことに意味がある訳ではなく、会社や業務との関係性や企業経営や業務を通じて学んだことの方に意味がある。今の当社が曲がりなりにも程々の社会的な役割を果たしているとすれば、私の経験して来たことも何らかの価値があり、次世代の人の参考になるに違いない。現実に出会った人、紙面を通じて知った人、多くの人に学んで今日の自分がある。アイヴィスと共に歩んできた 36 年間で振り返り、和辻哲郎の名著「古寺巡礼」にあやかり「故事巡礼」として、急がず焦らず 36 年間で振り返ることにする。大きく 3 カテゴリーに分け、随時、挿話に感想を加え、編集追加して行きたい。

私想真情 : 人との出会いや別れで、学び感じ考えたこと

克事慮情 : 想定外の困難に出会い、超える中で学び考えたこと

逢業慕情 : 仕事と仲間に出会い、学ぶごとに興味が増して考えたこと

当面は人との出会いを中心に社内限定、2 月 1 話のペースで書いてゆく積りだ。

今年の 10 月 13 日、山形に疎開した就学前の時から小中高大学、そして社会に出てからも、何時もその背中を追って育ってきた 2 年上の兄がこの世を去った。試行の今回は、創業一年目の暮、仲の良かった 3 人兄弟の妹との別れの思い出と人の心に宿る優しい気持ちに気付いた時の話を取り上げたい。

人に生かされている自分を感じ、自分も自分を越えた社会の一部であること、今に至る私の思想信条の一部であるが、あの時から無意識に自覚した様に思う。当時のフロッピー・ディスクから採録、原文のまま添付、掲載する。

以下、「故事巡礼__アイヴィスと共に 36 年 私想心情 試作版」です。

神様からもらったクリスマス・プレゼント

90.12.18 Y. I.

今年もクリスマスが近づいてきます。パーティーやクリスマス・プレゼントも年々、豪華できらびやかになり、ワーカホリック症候群の中老年にとっては異文化に出会う驚きと戸惑いを禁じえません。今でも、若い人たちの間には、昔と同じような温かい心の触れ合いがあるのでしょうか。

40 後半になって、さすがこの時節特有の感傷に陥ることはなくなりましたが、年のせい、過ぎた日のそれぞれのイブの思い出がつい昨日の様に蘇ります。

新宿の街で友達と夜明けまで飲み明かした夜、フィラデルフィアでのホーム・パーティーと大雪の中の教会ミサ。することもなく、一人で映画（ジャック・レモンとシャーリー・マックレーンの“アパートの鍵、貸します”）を見ていて、いつのまにか胸がジーンと熱くなって目頭を拭いていたこと。侘びしいけれど、いいクリスマスじゃないかなどと自分で自分を納得させていました。

家庭を持ってからは新婚の頃、親になった頃のこと、子供達の成長につれて年々変化してきたわが家、それぞれのクリスマスが楽しく思い出されます。

小学校に入学した頃、父が東芝に勤めていた関係で、川崎の社員寮に住んでいました。まだ、戦後の復興期ということもあり、物資も乏しく、たいていの子は粗末な服を着て、主食もすいとんや麦飯などがあたりまえの頃です。それでも、新しい時代の始まりであったためか、子供たちは泥まみれになって明るく遊んでいました。妹が生まれたのはそんな時代でした。

寮には子供会があり、クリスマスには特別の会が開かれ、歌や劇の他にクリスマス・プレゼントの当たるくじ引きもありました。一人で歩ける様になった妹を連れて、兄弟3人でクリスマス会に行きました。そこには親たちが工夫を凝らした飾り付けや見た事もないすてきなキャンデイ、手作りのクリスマス・プレゼントなどが沢山ありました。最後のイベントのくじ引きで、兄に当たったのはかわいらしい小さなお人形さんで、その時の兄の残念そうな顔ったらありません。帰り道、兄から人形をもらった妹の嬉しそうな表情も忘れることが出来ません。

昨年の12月24日は生涯忘れることのできない思い出のクリスマスになりました。病床にあった妹の笑顔を見た最後の日となってしまったからです。

その月の始め、妹は体の不調を訴え、近くの国立横浜病院に突然入院しました。診断所見の前日、年老いた母は緊張の極限に達し、倒れました。小学生の孫の面倒をみ、ガンではないかとの不安にさいなまれながら、病院での看病と神社・お寺への願かけに通う毎日だったのです。医師の説明には僕が立ち会いました。結果は最悪で、1年持つ保証はないとのこと。

覚悟は出来ていたとはいえ、奈落の底に突き落とされた心境でした。

不思議にも、それからの自分にとっては目に映るものすべてが美しく、感動を誘うものでした。風に舞う落葉、冬景色に染まった山々、クリスマスの近づいた街の風景、忙しそうな人々の顔、神の存在を感じさせられるような体験でした。

クリスマス・イブの日は日曜日で朝から強い雨が降っていました。前日も仕事が遅かったので、その日は9時過ぎに車で蒲田の事務所に出かけました。4時に切り上げる予定が、気がついて見ると既に5時を廻っている。家内との打ち合わせ通り、病人が喜びそうなショート・ケーキを買い求めると、家族連れや若いカップルで賑わう雑踏をくぐり抜け、急いで車に戻り病院に向かいました。

病院は保土ヶ谷駅近くの丘の上であって、小さな道が入り組んでいる所。途中で道を間違えていることに気づき、雨の降る暗く細い道でUターンする場所を必死に探していた時の事です。もう、6時を過ぎている。面会時間は7時、かなり焦り始めていました。住宅の隣に空き地を見つけ、ハンドルを切った瞬間、思わず絶叫。ただの空き地に見えた場所は、宅造中の土地。朝からの雨をふくんだ柔らかい土壤にタイヤがはまり、全く動けない状態になってしまったのです。

トランクにあった段ボールや棒切れを後輪の地面に敷いて、必死に動かそうとするが、ますますタイヤははまり込んで行く。6時半、時間がない。日曜日のクリスマス/イブ、雨、住宅街、家の中で楽しい食事の始まる時刻、人通りは全くない。万事窮す！無意識に手を合わせて神に祈っていました。

その時です。闇の中から2台の車が現れて、隣の駐車場にはいったのです。親戚同士らしい2家族。雨の中で、奥さんと子供達の弾んだ声が聞こえる。買い物帰りなのか、30前後の体格の良い男たちは重そうな荷物をかかえている。私は、彼らに走り寄り、事情を説明し助力を乞うた。妹になんとしても会いたい。家族達は突然降って湧いたトラブルに一瞬戸惑いの色をみせた。ふた言み言、内輪で話し合ってからリーダー格の男がぶっきらぼうに言った。”ちょっと待ってろ、着替えて長靴はいてくるからな”

その男はもう一人に運転を命ずると、私を怒鳴りつけながら車を持ち上げたり、押すことを繰り返した。車はまもなく道路に出る事が出来た。雨の中で、男も私も泥だらけになっていた。”お礼なんかいいよ、早く行ってやんな”男はそう言置くとそそくさと家の中に入っていった。

病院に着いたのは7時10分前であった。靴の泥を玄関で落とし、トイレで手の泥を洗落とし、病室へ急いだ。

”な~に~、お兄いちゃんたら！幾つになっても昔と同じ子供なんだから”楽しそうに微笑みながら、ベッドの隣の小物入れから雑巾を取り出し手渡してくれた。

それから、子供の頃のクリスマスの思い出を懐かしく語り合った。

帰りも強い雨が相変わらず降り続いていた。家に着くと、元気そうな妹の顔を見た安心感で、疲れがどっと出た。妻と子供達が小さなろうそくを灯したケーキを囲んで、懐かしいクリスマス・キャロルを唱っていた。

家内に今日の出来事の一部始終を話しながら、見知らぬ男への感謝の気持ちが心の底から湧いてくるのを感じた。人の心に宿る優しい思いやり。神様からもらった最高のクリスマス・プレゼント。

妹はそれから3日後、小学生の息子を残して、この世から去って逝った。枕元には旧約聖書と読みかけの聖書物語が置いてあった。母が後で話してくれたことによれば、抗ガン剤の影響で飲込む力もなく、ケーキは翌日まで口をつけないまま冷蔵庫にしまっていたそうである。

'お兄ちゃんて馬鹿ね!でも、嬉しかった。泥だらけのクリスマス・イブ。嬉しくて、嬉しくて、ひとりで泣いた。'妹を一番大事に想っていた長兄も仕事の都合で、突然逝った彼女とはついに話す事が出来なかった。母の言葉を聞いて私だけは心の中で別れの言葉を交わしたような気持ちになることができ、救われた。

妹は海に見える久里浜の丘に眠っている。今月の2日、早めに一周忌も済ませた。義弟の再婚話も進み、子供は新しい母と一緒に皆で幸せな家庭を創ってゆくだろう。時の流れの中で、私も辛い思い出は次第に薄れ、自称中年ワーカホリックに相応しく、相変わらず土日の時間を惜しんで仕事をしている。

今年もまた、クリスマスがくる。
私の人生に、新しくどんな思い出が加わることになるだろうか。

(おわり)